

【平成25年度】八千代市の財務書類（概要版）

連結バランスシート

（平成26年3月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部				負債の部			
区分	普通	連結	連÷普(倍)	区分	普通	連結	連÷普(倍)
1.公共資産	166,180	258,958	1.56	1.固定負債	63,457	87,128	1.37
（うち有形固定資産）	(159,684)	(245,881)	(1.54)	（うち地方債・長期借入金）	(48,281)	(70,830)	(1.47)
2.投資等	7,463	7,575	1.02	2.流動負債	6,673	8,871	1.33
3.流動資産	5,922	11,537	1.95	負債合計	70,130	95,999	1.37
（うち資金）	(5,526)	(10,074)	(1.82)	純資産の部			
4.その他				純資産合計	109,435	182,071	1.66
資産合計	179,565	278,070	1.55	負債及び純資産合計	179,565	278,070	1.55

連結資金収支計算書

（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

区分	普通	連結	連÷普(倍)
期首資金残高	3,589	8,573	2.39
1.経常的収支額	10,086	12,060	1.20
2.公共資産整備収支額	△ 2,495	△ 3,562	1.43
3.投資・財務的収支額	△ 5,654	△ 7,002	1.24
4.その他		5	皆増
期末資金残高	5,526	10,074	1.82

※赤線は、4表の間における相互の関連を示します。

連結行政コスト計算書

（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

区分	普通	連結	連÷普(倍)
経常行政コスト	43,711	86,144	1.97
1.人にかかるコスト	10,659	12,156	1.14
2.物にかかるコスト	13,352	17,185	1.29
3.移転支出的なコスト	18,879	54,422	2.88
4.その他のコスト	821	2,381	2.90
経常収益	2,512	32,912	13.10
純経常行政コスト	41,199	53,232	1.29
（経常行政コスト－経常収益）			

連結純資産変動計算書

（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

区分	普通	連結	連÷普(倍)
期首純資産残高	106,295	177,782	1.67
純経常行政コスト	△ 41,199	△ 53,232	1.29
財源調達	45,509	58,326	1.28
（一般財源（地方税等））	(33,595)	(33,650)	(1.00)
（国・県補助金受入）	(11,914)	(24,676)	(2.07)
臨時損益	△ 618	△ 740	1.20
その他	△ 552	△ 65	0.12
期末純資産残高	109,435	182,071	1.66

【作成方法】

総務省が平成19年10月に策定した「新地方公会計制度実務研究会報告書」に準じて「総務省方式改訂モデル」で作成しています。

連結

普通会計

- ・一般会計
- ・墓地事業特別会計

- 〔公営事業会計〕
- ・国民健康保険事業特別会計
 - ・介護保険事業特別会計
 - ・後期高齢者医療特別会計
 - ・水道事業会計
 - ・公共下水道事業会計

- 〔一部事務組合・広域連合〕
- ・千葉県市町村総合事務組合
 - ・四市複合事務組合
 - ・印旛利根川水防事務組合
 - ・千葉県後期高齢者医療広域連合
 - ・北千葉広域水道企業団

- 〔第三セクター等〕
- ・（公財）八千代市文化・スポーツ振興財団
 - ・（公財）八千代市環境緑化公社
 - ・（株）八千代市水道サービス

市の資産・債務のストック情報や行政サービスの提供に要したコストなどを明らかにするため、企業会計の考え方を導入した「新地方公会計制度」により、市の各会計に加え、連携協力している団体までを一つの行政サービス主体とみなして平成25年度決算の連結財務書類4表を作成しました。

【バランスシート（貸借対照表）】

市の財政状態を一目でわかるようにしたものです。住民サービスを提供するための財産である「資産」と、その資産を取得するための財源として、将来の世代が負担する「負債」と、過去の世代が蓄えてきた資産である「純資産」がどれくらいあるかを把握できます。

【行政コスト計算書】

資産の形成につながらない人的サービスや給付サービスなどの1年間に要した行政サービスの状況を明らかにするものです。また、そのコストにどのような収入を、どれくらい充てたのかを把握できます。

【純資産変動計算書】

バランスシートの純資産の部に計上されている各数値が、1年間でどのように変動したかを把握できます。

【資金収支計算書】

単純に現金ベースで1年間の資金の流れ（フロー）を把握できます。